
坂田係長のせいかつ

バーディ・ヴェン・菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

坂田係長のせいかつ

【Nコード】

N1312B

【作者名】

バーディ・ヴェン・菊

【あらすじ】

平凡な坂田係長と係長の恋する部下の米山嬢が登場するコメディ
短篇小説。

ここは無人島…

一人の男が流れ着いていた。

「イテテ……あれ？ここはどこだ??」

『ガン!』

「ぐあ……!」

ヤシの実が男の頭に当たり男はまた気絶した。

こうして彼は気絶しては目覚めを繰り返していたのであった。

「坂田係長!…坂田係長!」

男を呼ぶ声がした。

「…ううん…はっ!君は大和撫子日本三大美女のキャビア川トリュフじゃ!?!」

「何を訳の分からない事を言ってるんですか?部下の米川ですよ。夢でも見てたんですか?そんな事よりボートを作る木は見つかったんですか?」

「はっ!…そうだった、我々は営業の接待の釣りの途中で嵐に合っ
て遭難したんだったね米川君!?!」

女はいぶかしげにこう答えた。

「何言ってるんですか？係長が私をデートに誘って貸しボートに乗ってたら係長がはしゃぎ過ぎてボートを壊しちゃったから木材集めて許してもらおうって自分が言っただんじゃないですか？？」

男ははっと思い出しこう言った。

「…そうか、それでこの無人島まで来てしまったワケだね？大変だ、早く家に帰らねば家内に怒られるぞ。」

女はまたもいぶかしげに言った。

「何言ってるんですか？なんで木材集めに無人島なんか来なきゃいけないんですか？ほら浜の向こうでボート屋のおじさんが見てますよ。だいたい木材なんか集めて許して貰えるワケないじゃないですか？ちゃんと弁償して下さいよ。それに係長奥さんなんかいないじゃないですか。」

女は疲れたという顔をしながらこう言った。

「ああなんか馬鹿みたい。ボート壊したのだって私じゃないし。友達と約束あるんで帰ります、さようなら。」

と、女は去って行った。

男はヤシの実を拾いヤシの木を見上げた。

そして木をさすってみたが落ちて来る事はなかった。

（後書き）

感想・ご意見等よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1312b/>

坂田係長のせいかつ

2010年10月9日17時19分発行